

市営バスにおける印場駅～愛知医大間試験運行の概要及び検討結果

市営バスあさび一号は、利用者数の増加に伴い、午前中の便を中心に「乗りこぼし（定員超過による乗車不可）」が発生しており、地域公共交通の安定運行と利便性確保の観点から、早急な対応が求められている。このような状況を受け、令和4年度以降、段階的に課題の整理と対応策の検討を進めてきた。

1 試験運行実施までの経緯

(1) 令和4年度第4回地域公共交通会議（令和5年3月28日開催）

- 市営バスに係る運行見直し検討として、市営バスが抱える課題や要望を提示。乗りこぼしについては、対応方法や必要な車両数、運転手の配置等、検討事項が多岐に渡ることから、運行事業者等と調整が調い次第、実施することを決定した。

【会議にて提示した市営バスが抱える課題や要望】

- ①午前中の利用集中に伴う乗りこぼしの発生
- ②年末年始の運行要望（⇒令和5年度から令和7年度にかけ年末試験運行を実施）
- ③停留所設置、移設要望（⇒令和5年度に、大森北停留所、東大久手停留所を新設）

(2) 令和5年度第3回地域公共交通会議（令和6年2月6日開催）

- 乗りこぼし対策として、運行内容への見直し検討の方向性を協議を実施した。

【西ルート】 右回りは、市役所周辺の銀行や商業店舗の開店に合わせ1便での発生頻度が高い。
左回りは、西部地域から愛知医大への移動が集中し、1便での発生頻度が高い。
【東ルート】 右回り2便で商業店舗の開店時間に合わせて発生頻度が特に高い。

(3) 令和6年度第1回地域公共交通会議（令和6年5月28日開催）

- 乗りこぼし対策として、西ルート左回りは、印場駅～愛知医大の区間で試験運行を令和6年9月から実施することを決定した。

【検討における留意事項】

- ① 現行ルートでは、車両変更による輸送力の強化は困難である。
- ② 労働時間等の規制強化等の影響で、現行以上の乗務員が必要となる増便は対応できない。

ア 西ルート左回りでの乗りこぼし対策

運行事業者と協議した結果、現状の運行体制のまま対応可能な対策として、利用が集中していた印場駅から愛知医大までの一部区間において、1便よりも早い時間帯に試験的に運行することで、乗りこぼし対策としての効果を判断することとした。

イ 東ルート及び西ルート右回りでの乗りこぼし対策

運行ダイヤの調整では解決が見込めないと判断。乗りこぼしについては、バスロケーションシステム（令和7年2月から導入）により、利用者が乗りこぼしのリスクを確認できる環境を整備し、利用者の分散化を図ることとした。

2 試験運行の概要

- (1) 試験運行便ダイヤ 印場駅 8:10発 → 愛知医大 8:35着（1便の愛知医大到着は9:41）
- (2) 試験運行期間 令和6年9月2日から令和8年3月31日までの平日
- (3) 試験運行の利用者数（令和8年1月末日時点）

年度	運行日数	利用者数	1便当たりの利用者数	(参考) 西ルート左回り1便あたり利用者数
令和6年度	138日	939人	6.8人	24.0人
令和7年度	205日	2,115人	10.3人	-
合計	343日	3,054人	8.9人	-

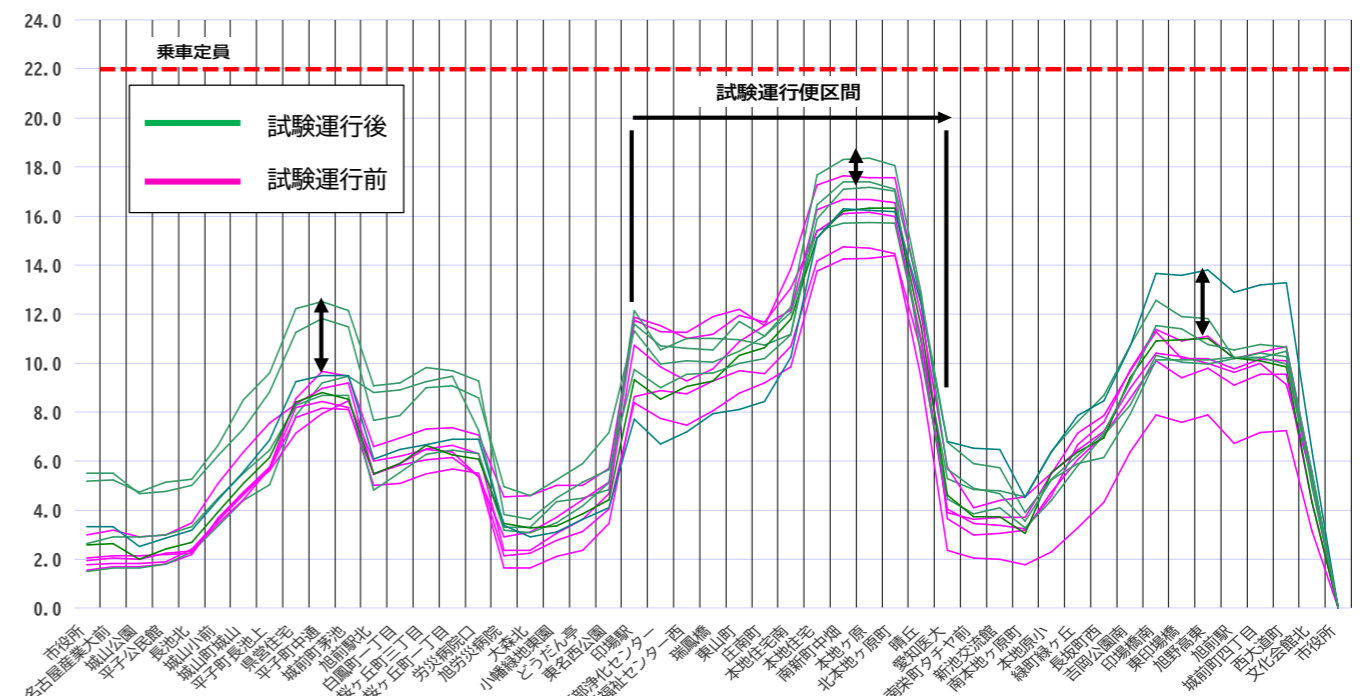
3 乗りこぼしの発生状況

(1) 年度別利用者数・乗りこぼし件数等

年度	全ルート			西ルート左回り				
	利用者数	乗りこぼし発生件数	乗りこぼし人数	利用者数	乗りこぼし発生件数	うち1便	人数	うち1便
平成30年度	236,096	21	43	64,062	11	9	25	19
令和元年度	241,878	29	78	64,911	16	12	55	47
令和2年度	193,534	12	35	49,673	2	2	8	8
令和3年度	202,454	4	5	52,230	1	1	2	2
令和4年度	217,943	26	84	57,740	9	8	19	18
令和5年度	239,103	37	100	61,647	12	11	31	27
令和6年度	251,062	31	83	66,635	10	10	26	26
令和7年度	222,779	34	78	59,913	14	13	35	33

※令和7年度は、1月末日時点での数値

(2) 西ルート左回り1便の平均乗車人員の状況推移（平日）



(3) 試験運行開始後の乗りこぼしの発生状況について

試験運行を開始後は全体的に利用者が増加している中で、試験運行便を運行した区間については、利用者の増加が他の区間に比べて少なかった。(西ルート左回り1便の平均乗車人数の状況推移参照)
乗りこぼし件数は、令和7年度は1月末時点で過去最多の13件で、人数は過去2番目に多い33人であった。
西ルート左回り以外でも乗りこぼし発生件数は、一部を除き増加傾向にある。(右下資料参照)

4 試験運行便に関するヒアリング内容

試験運行便の利用実態を把握することを目的として、試験運行便や西ルート左回り1便の利用者のほか、市営バス利用者主要な目的地となっている愛知医大に対し、ヒアリングを実施した。また、試験運行を取り巻く状況を把握するため、運行事業者にもヒアリングを実施した。

(1) 利用者アンケート・ヒアリングから見た試験運行便の評価と実態

ア 主な利用者層と目的

- ・利用者の約半数が70歳以上の高齢者を占める。
- ・通院目的が約80%を占め、愛知医大への移動が主な利用動機であった。

イ 利用前の移動手段と変化

- ・タクシーや他バスからの移行が約44%、新規利用者が約40%を占める。
- ・既存の1便からの移行は16%にとどまっており、混雑分散効果は限定的であった。

ウ 時間帯に対する評価

- ・試験運行便(印場駅8:10発/愛知医大8:35着)は、一部の通院ニーズに合致している。
- ・「時間が早すぎる」、「1便の方が都合が良い」との声も多く、利用者ニーズとのずれが見られた。

エ 愛知医大の見解

- ・外来の来院ピークは10時~11時で、多くの患者が予約の30分前までの到着を希望している。
- ・通院頻度は2週間、1か月、3か月が多く、同じ曜日や同じ時間帯での予約する人が多い。
- ・試験運行便の愛知医大への到着時間(8:35)は、やや早すぎる可能性がある。

オ まとめ

試験運行便は、高齢者や通院目的の新規利用者の獲得には一定の効果があったものの、既存の1便からの利用分散は進まず、乗りこぼしの緩和にはつなげられていない。
愛知医大へのヒアリングによると、外来の来院ピークは10時~11時で、患者の多くが診療予約の30分前までには愛知医大に到着したいと考えていることから、試験運行便の愛知医大への到着時間(8:35)は、一部の利用者ニーズに合致するものの、大半の利用者の行動パターンとの間にずれが生じている。

(2) 運行事業者へのヒアリング

- ・半周とはいえ、早い時間に出勤してもらう必要があり、乗務員の負担が大きい。
- ・工事に伴う渋滞の影響による遅延もあり、運行体制を変える必要が生じている。今後も渋滞解消の見込みは薄く、この体制を1年以上も続けていくことは難しい。
- ・試験運行便は、1便からの移行よりも、新規利用者が増えた印象があり、乗りこぼしに対する効果の実感はない。

5 検討結果

今回の試験運行便は、乗りこぼし対策として一定の効果を示したものの、抜本的な解決には至らず、今後も乗りこぼしの発生は避けられないと見込まれる。また、運行事業者への負担は大きく、工事による遅延も重なったことで、当初の運行体制を超える状況となっていることから、試験運行は予定どおり令和8年3月で終了することとする。

乗りこぼしには、輸送力の強化や利用者の分散が必要とされる一方、現行ルートでは車両の大型化は望めず、また、労働時間規制の強化などにより増便も難しい状況にある。試験運行のように短期的な対応には限界があり、即時の対策は困難と考える。

したがって、当面の間は現行どおり、乗りこぼし発生時には代替車両を配車して対応することとし、抜本的な乗りこぼし対策を検討していくこととする。

なお、乗りこぼしは西ルート左回りにとどまらず、他のルートでも増加傾向にある。今後は、全ルートの利用実態や混雑状況、時間帯別の需要を再度精査し、課題の全体像を把握した上で、持続可能な市営バスの運行体制の下での乗りこぼし対策を検討する。

6 今後の方向性

(1) 輸送力の最適化

車両の大型化が困難な現状を踏まえ、午前中の需要ピークに対応したダイヤの再設計や、便の設定時間帯の最適化を検討。

(2) 利用者の分散誘導

バスロケーションシステムによる、バス車内の混雑状況の「見える化」は、利用者が、乗りこぼしの発生可能性を予期することに有用であるため、バスロケーションシステムの周知をより図り、利用者の行動変容を促す。

【参考】

▼年度別・ルート別乗りこぼし発生件数

	西・左回り	西・右回り	東・左回り	東・右回り	合計
令和元年度	16	5	0	8	29
令和2年度	2	1	2	7	12
令和3年度	1	2	0	1	4
令和4年度	9	12	0	5	26
令和5年度	12	11	1	13	37
令和6年度	10	13	2	6	31
令和7年度	14	12	5	6	37
合計	64	56	10	46	176

▼年度別・ルート別乗りこぼし発生人数

	西・左回り	西・右回り	東・左回り	東・右回り	合計
令和元年度	55	11	0	12	78
令和2年度	8	1	7	19	35
令和3年度	2	2	0	1	5
令和4年度	19	36	0	29	84
令和5年度	31	41	1	27	100
令和6年度	26	36	10	11	83
令和7年度	35	21	10	17	83
合計	176	148	28	116	468